

第4回流山市生きづらさ包括支援の在り方懇談会 議事要旨

(日時) 令和5年1月26日(木) 13:30~16:30

(場所) 流山市役所 第2庁舎 3階 301会議室

(出席) 勝本委員、今成委員、中田委員、関根委員、田中委員、石川委員、
田熊委員 (ZOOM 参加)

(事務局) 流山市伊原健康福祉部長、同部宮澤次長、池田社会福祉課長、
中川健康福祉政策室長、その他市職員

<議事案件>

- 事務局説明 (流山市における将来人口の見込み・プロジェクトチーム検討状況)
- 参加支援の在り方について
- 地域づくりに向けた支援の在り方について

<懇談会における主な意見>

- 多機関協働とアウトリーチは重なることが多い。この両方をどう整理して体制を構築するかが重要。総合相談を作るのは簡単ではないので、既存窓口を活用するのであれば、各分野の中核的機能を担う機関の強化が重要では。窓口や職員を増やす、相談の対象を見直し範囲を広げること等が大切。個人的には総合窓口があるといいとは感じている。
- 多機関協働・アウトリーチ・参加支援・地域づくりの4つをどう繋ぐのかが重要。
- 参加支援について、有償の運転ボランティアも就労支援になる。病気療養中の方等にご協力いただくなどの仕組みづくりが参加支援でできるといいのではないか。
- 地域住民を「地域で活動する主体」として捉え「ビジョンを共有し、一緒にやっていきたい」という姿勢が大事。
- 特別支援教育は増えることは望ましいが、支援学級がどんどんできると通常学級が変わらないという流れに。参加支援も似ている。多様性・ごちゃまぜの視点も必要で、例えば、障害関係の強い団体とパソコンの強い団体など、コラボレーションして、より参加しやすい場が増えていくとよいのでは。
- 既存のものを活用したほうが効率が良い。新規立ち上げは大変。
- 子ども食堂、ふれあいの家、商店街を作るような取り組みをしている市町村が多い。多世代交流等の参加できる対象者を広げたものをどうやって作るかがポイント。
- 枠を広げていくことも重層事業の大事な役割。すでにあるものを活用し、既存のグループ等に、枠を広げ受け入れていただけるような仕組みづくりが地域づくりにつながっていくのではないか。
- 多世代交流などを考えた場合、子どもにウェイトをおくほうが良いのでは。未来を担う子供たちが参加しやすいと、他の層でも参加しやすくなるのでは。
- 場所作りについて市民の方はあまり断らないとのこと。
- 市内の社会資源を洗い出し、手薄な部分を把握すべき。参加支援と地域づくりは繋がっているため、コーディネーターが必要で、こういう人たちを育て、地域に送り込んで

いくことが重要。

- コーディネーターは、例えば子ども食堂の横のつながりを作っていく等の組織的な動きができるようになると、他の組織とのつながりが生まれることもある。
- 地域づくりにおいては、地域の中でポイントを押さえた場を作っていくかが重要。いろいろな関係者が話す場を持つのはどのように行うか。地域づくりを行うということ人で人を集めるなど、集まった人たちのアイデア出しができる場が必要。
- ネットワークづくりに当たって、誰が中心になってやってくれるのか。関心のある人、目的のある人たちで作っていくためには、中心に立って活動してくれる人の存在を見つけていくことが必要なのでは。
- 人探しが重要、民間の企業の知恵、価値観が吸収できるようなイベントを作るといろいろな人へのつながりも生まれるのでは。
- 北部と南部では全くニーズが違う。地域のニーズや足りないものについて、会議体やネットワークをしっかりと活用し、福祉分野に携わる方に聞いていくことが必要ではないか。また、地域でやろとしていることを（コーディネーターを通じてでも）行政が把握しておくことも大事。
- 地域にどのような問題があるのか。一緒にやっていきたいという姿勢が大事。地域の課題整理と、どのようにしたいかのビジョンを地域住民に伝えしていくと、何が必要かなどが見えてくると思う。
- 地域には見守りという役割もある。ケアマネや民生委員さんが知っていることもあるため、住民同士はもちろん住民や支援側とのつながりが大事。ネットワークや会議が必要である
- 重層事業は、現在課題を抱えている方への支援だけでなく、新たに課題を抱える人を生まないようにする予防的性格も含んでいる。高齢化や一人暮らしの人が増えていく中、一人一人がバラバラにならないよう、地域を巻き込んでいながら、相談に来れない方にも定期的な見守りが行われるような体制を育てていく必要。
- 人口が減り、地域や家庭の力も減少していく中で、どうやって市民をサポートするかという難しい課題が迫っている。行政と民間の協力により、どうサポートするか、どう予防していくかについて検討していく必要。
- 新たに困る人を生まないようにという観点では、把握しているひきこもりの方には、子どもの頃に原因があることも少なくない。
- 昔いじめられた方が今いじめられている子の居場所になってあげることで、両者が元気になった事例も。サードプレイスにつなげる方法を考える必要あり。
- 英語のできるケアマネを教えてほしいという依頼があった。中国籍の方の来所があったり、今後、外国籍住民等への支援が増えるのではないかという実感がある。
- 外国語の防災ガイドブックについて考えた団体があったが、意外なことに英語ではなく平易な日本語のものが必要とのこと。ファミリーサポートでも、外国籍の方の問い合わせは増えている。
- 外国籍住民の家族を支援した事例では、家賃補助はできたが在留資格の関係上、仕事ができず、日本語もできないため、支援が困難であった事例がある。